

2008年(平成20年)12月10日(水曜日) (毎週水曜日発行)

新しい植物性乳酸菌未上市

I H M すんき漬けから分離・ナノサイズ化

「予防と初期治療のパイオニア」を目指しているインターナショナルホームメディカル(略称:IHM、東京都品川区、

03・54335・8657)は、木曾地方の特産漬物「すんき漬け」から植物性乳酸菌を分離しナノサイズ化した「植物性ナノ型乳酸菌未IFL30」の市場開拓を開始した。新たな植物性乳酸菌素材としてサンプルワークを進めており、すでに数社から引合いがきているという。

菌)を規格、粒度はデキストリンを添加し1mmスクリーンパスに整えた褐色粉末体となっている。独自技術でナノ化培養し、て粉末化しており、かつ水に溶けても乳酸菌同士のくっつきが起らないことや胃酸や熱に安定性が高く、さまざまな用途

の利用が可能、などの特長を持つ。同社では、世界各国の乳酸菌の研究の中から、長寿県として知られる長野の木曾地方には疫学調査で健康的な免疫バランスの人が多いことに着目。その木曾地方で約400年以上の食歴がある

「すんき漬け」に含まれる乳酸菌に注目し、IL-12、INF- α 産生能を研究したところ、粒子形が小さく、かつ両者の産生能のバランスに優れた乳酸菌を発見した。これまでの研究で乳酸菌の粒子径が小さいと免疫を活性化させることも確認している。今後同社では、この技術を活用し、乳酸菌本来の役割を十分発揮できる商品開発にも着手していく考えだ。

に定着できないことを説明し、生死を問わず乳酸菌とその代謝物の両方を摂取することが望ましく、サプリメントとして食生活に取り入れると役立つと紹介した。

野の木曾地方には疫学調査で健康的な免疫バランスの人が多いことに着目。その木曾地方で約400年以上の食歴がある

最後に食の効能普及全国会議の中嶋茂議長が「健康食品規制に対応した新たな法律とその要件」と題し、健康食品にかかわる制度についてや超党派議員連盟「健康食品問題研究会」がリスク低減表示を可能とする立法活動を進めていることを紹介した。

注目集めるバイオジェニクス

連絡協議会が第一回セミナー開催

「バイオジェニクス」(腸内フローラを介することなく免疫賦活やコレステロール低下作用、血圧降下作用、整腸作用、抗腫瘍効果などに直接働く成分)が注目を集める中、その啓蒙と普及を目指して活動するバイオジェニクス連絡協議会は11月26日、東京・国際フォーラムにおいて第一回バイオジェニクスセミナーを開催した。

セミナーではまず、光岡教授が講演。乳酸菌研究の歴史や「バイオジェニクス」について紹介した。光岡氏は、外部から取り入れた乳酸菌は腸に定着できないことを説明し、生死を問わず乳酸菌とその代謝物の両方を摂取することが望ましく、サプリメントとして食生活に取り入れると役立つと紹介した。

「すんき漬け」に含まれる乳酸菌に注目し、IL-12、INF- α 産生能を研究したところ、粒子形が小さく、かつ両者の産生能のバランスに優れた乳酸菌を発見した。これまでの研究で乳酸菌の粒子径が小さいと免疫を活性化させることも確認している。今後同社では、この技術を活用し、乳酸菌本来の役割を十分発揮できる商品開発にも着手していく考えだ。

乳酸菌研究で著名な光岡知足東京大学名誉教授が提唱した「バイオジェニクス」について紹介した。光岡氏は、外部から取り入れた乳酸菌は腸

バイオジェニクス連絡協議会
が第1回セミナー開催
※IHM協賛セミナー

ナノ型乳酸菌の効果を発表